

令 和 4 年 1 1 月 1 4 日 令和4年度学校だより NO.40② 加 古 川 市 立 平 荘 小 学 校

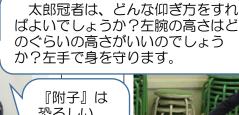
元気よく間違う! (6年生:狂言学習)

今年度も、6年生は狂言学習に取り組んでいます。6年生に期待していること、期待されていることは、『自分たちで考えた、今の6年生にしかできない狂言』を演じることです。そして、『附子』チームは『附子』チームで知恵を出し合い、『柿山伏』チームは『柿山伏』チームで知恵を出し合い、自分たちの表現をチームとして完成させてほしいと思っています。自分の演技が、自分より前に演じた人の演技(心)を引き継ぎ、次の人(自分より後に演じる人)につないでいく、チームとして一つの演目を仕上げていってほしいと思います。そういう意味で、自分の担った役(登場人物)を自分たちなりに精一杯理解し演じて、「山口先生、私たちの登場人物を理解した演技はいかがですか?」と

思いをぶつけていってほしいです。山口先生は、それ(元気よく間違う)を6年生に求められています。そういう6年生のチャレンジ精神を期待しておられます。待っておられます。山口先生は、「一生懸命に演じているけれども上手といない。そういう人を前にした時何とかしたいと思います。」とおっしゃいました。6年生のみなさ

ん、失敗を恐れず、チャレンジしましょう。

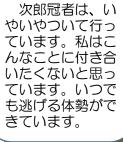
『附子』は、大の毒!向こうから 吹く風に当たっただけでも滅却し てしまう恐ろしいものです。



恐ろしい 物!目線を 外すことは できませ ん。

身のかがめ方は?大の毒の 風に当たらないように体を低 くして近づいて行こう。

ー挙手一頭足に気を配るように しましょう。







自分のキャラで 演じません。自分 のふだんを封印し て役を演じます。 太郎冠者と次郎冠 者に変身します。 自ずと笑いの質が 違ってきます。 セリフを読んでいるうちに、太郎冠者や次郎 冠者がしたいことを想像できるはずです。その 想像したこと(自分が思ったこと)を演じて、 (山口先生の前で)試してください。そういう 状態で稽古に臨んでほしいです。

舞台に立つと、何百という目が舞台上のあなたたちに注がれます。多くの人に観られています。その多くの人に観られているという怖さを経験してほしいと思います。そして、それに負けないように、しっかりとした意思をもってほしいと思います。それができた時に、アドバイスができます。

『柿山伏』の稽古より

山伏は、修行を終え神通力を得て自信に満ちています。いばっています。







いばっている山伏が、猿の真似をさせられて面目丸つぶれになったところを演じます。自分ではなく山伏になって演じます。す。

自分の殻を飛び出し、新たな人格を演じます。自分のキャラ感の中で演じると、ちっちゃな演技になっておもしろくありません。









セリフをいう時は、お腹に力を入れて、ゆっくりたっぷり、息を吸ったり吐いたりしましょう。息をたっぷり 吸う時に間ができます。

次回の課題は、『役をつくる』です。自分を演するのではなく、役を理解し役になりきって表現しましょう。

≪山口先生の言葉≫

6年生のみなさんが、山口先生に食らいついてくれるので教え甲斐があります。「上手になっていく自分」=「本番に向かっていく自分」です。自分で目標を立てて頑張ってください。楽しみです。